

幼稚園の先生の執るべき態度如何。先づそこからしかり腹をきめてかゝらなければならぬ。さうして子ぎもの喜びに心を合はすべきか。子ぎもらしい希望をさう正しく描かせるべきか。その喜びと希望の明るさの中に、さういふ心構へを用意させるべきか。——それも、何も幼稚園を急に

誘導保育

第八週

人形の家つゞき

ラヂオ

文明の利器の中でも、最もポピュラーなもの、おそらくごこの家庭にも備へられてあるであらうラヂオを、是非人形の家にも一言ふので計畫された。

一枚の板にラヂオの表の圖を描きて、之を鋸ミシンで切抜き、波長を合せる目盛りをつけ、これを表面にしてラヂオ箱を拵へる。度盛り器をぐるぐる廻る様にしたので、子供達は「JOAK、之から何々の放送がございます」と言つ、

小學校豫備門にするといふのでは決してない。要は、お正月前、來年はの楽しみ心に、さう小學校を楽しみ附け加へさせるかの話である。實際の仕度も無いではないが、それは一歳大きくなつてからでよからう。

た調子で、拵へた當座は實に繁昌である。

諸道具配置

いよ／＼立案されただけのものが略々完成したので、それ／＼人形の家に配置する。間口が三メートルもあるのでかなり広いお家が出来た。それで、衝立で二ツに仕切つて一ツは客間、一ツは臺所と言ふ風にした。客間の方には、先づズツクに果物の縫込みと言ふ面白い敷物を敷いた。まここに可愛らしく綺麗なので、大人の私共が家の應接間にも欲しいと言つた程だつた。こゝにはクリーム色に塗つて

縁を緑でふちぎつたテーブルを真ん中に据ゑ、同じ色の調子に塗つた椅子三ツ程を置いた。一隅には三角棚（之もクリーム色）を置き、上の段には可愛いらしい花瓶にお花を入れておき、下の段には、ラヂオ、幼児の作つたおもちゃの一二種を時折代へて置いた。客間の出窓には、例の苦心の作、植木鉢カバーに入れたベコニヤ、蘭等の鉢を、之又時々に変化せしめておく。

片方の臺所の方には衝立の柿の繪を向けておく方がふさはしい。こゝには塵を敷いた。この方がすつミ臺所らしい感じが出る。そして水道のじや口までついた流し（棚二三段あるもの）を一面に、之に直角に、茶箆筥をおいて、お皿や紅茶のセット、罐詰等を棚の上のせておく。流しの方の棚や、折釘にはお鍋、フライパン、布巾かけ、おひつ、お釜、醬油樽、組板等所謂臺所道具を置く。大根、人參、キャベツ、葱、おじやが等の野菜は、籠に入れて流しのわきに置き、さんま、鯛、平目、いか、えび、蟹、蛤等の魚介類は大形のお盆（丸いビスケット空罐を塗料にて塗つたもの）に入れて臺所の臺の上におく。菊の花びらが組の上に料理し

かけてあつたり、小籠の中にほんもの、栗が入れてあつたり、クレープペーパーで拵へた松茸が入れてあつたりするミ、ぐつミシーズンが出て来る。こう一應諸道具を配置して見るミ、この家は幼児達にまつて嬉しいばかりでなく、身を入れてこれの製作指導に當つた吾々大人にまつても、實に嬉しい。味つても味つても飽く事のない愛著心が湧いて來て、いつまでもいつまでも見されずには居られないものミなつてしまふ。

完 成

大きなきれいな人形のお家が出来たミ云ふので、他の組の幼児達も、三三五五打ちつれて見に來て下さる。テーブルの前の椅子に腰掛けて、嬉しそうにして、一時を遊んで行く子供もあるのだ、こゝでほんミのお紅茶やお菓子を振舞つたら、みんなよろこぶだらうかと思ふミ、そうして見度いミ云ふ氣持になつて來る。そこで他の組の御招待ミ云ふ事になる。併しほんミのお紅茶にお菓子のご馳走であるから、他の組よりも前に、先づ自分の組の子供達に、受持の先生ミ實習生ミがウェイトレスになつて、ご馳走を

しておいて言ふ順序にせねばならない。これが済んで、次々ミ一組ぐらゐづゝをご招待してお紅茶ミボール等を馳走して見た。振舞ふ方も振舞はれる方もよろこびで一つばい、實に楽しい一日である。

第九週

動物玩具のいろく

この案は、今までのこは一寸趣きを異にしてゐる。即ち或一貫したプロゼクトの下に、漸次、シーンが展開してゆき、之を誘導してゆくと言ふ意味のものは考へないのこで、これを誘導保育の一案としてこの欄におくかきうかは、一同で協議した事であつた。併し實際さしてかういふ場合もあるし、またあつてもいゝから言ふ事で、こゝに加へる事になつたのである。あの欄に記載してある様に、象、人形、お馬、龜、おぎけ人形等、次々ミ手足の動く玩具を工風して作り、それを一まきめにしてしまつておけるかばん等をも拵へて、時々出しては自分の好きなものを動かして遊ぶさ云ふ趣向は、私共大人でも大いに楽しい事である。事實、子供達は、ほんまうに嬉しそつだつた。そして時々

こつそりさ、自分の寶物でも出す様に、抽出から出して來ては動かして遊んでゐた。或時は、十數人相談で、同じ玩具を出して來て、お互の玩具がお互にお友達になつて、こかを見物に行くさか、遊ぶさか、子供の演ずる人形芝居を見るさか、誇張なしに言つて楽しい楽しい遊び方をしてゐた。ありつたけの工風をして案出した玩具が、みんな出來上つた時は丁度暮だつたので、暮のお土産さ言ふわけで各自家へ持ち歸つた。

これの期待効果は、動かす仕かけの工風、手技、觀察さ云ふ様なこさ。

繼續作業時間は、年末までに仕上げ様さ言ふので必然的に七週間さなつたわけ。

此週は

象(作り方は手技の項参照)

色塗り、切り抜きまでは子供の仕事。これから先き完成までは大人の仕事になるわけだ。

第十週

人形(手技の項参照)

第十一週

龜

背中(丸みをつける)ミお腹の二枚が胴で、これに頭ミ二本の手、二本の足をつけ、真ん中に心棒があり、この心棒を上下するミ、頭、手、足が動く様に工風したものを。色は黒だから簡單。切り抜く。これから先の仕事即ち、心棒を拵へたり、之に手足を縫ひつけたり、お腹ミ脊中を縫ひつけたりの仕事は大人の仕事になる。

唱歌遊戯

第九週

唱歌 二回

オニゴッコ(エホンシヤウカ)

遊戯 二回

オニゴッコ(記事参照)

二人でジャンケンをして鬼を定め、勝つたものは自由な方向に逃げてそれを鬼が追つかける。

馬

お馬の上に赤い可愛い、騎兵さんが乗つてゐるミころ。心棒を動かすミ、騎兵さんが、手づなを引き、體を前後に動かす様に工風したものを。

第十二週

おぎけ人形

お人形さんが舌を出したりひつこめたりする様に工風したものを。お人形の顔はぎうにでも工風出来る。

最初の「オッカケルヨ、オッカケルヨ」の所でお互ひに拍手する時は、鬼は「さあこれからつかまへるよ」云ふ氣持、逃げる方は「こゝまでおいで、つかまへるならつかまへて御覽」云ふ様な氣持です。ミ大變興味が出て來るスキップで逃げる間に鬼につかまへられたら二番をすゐる時に鬼になる様にするミよい。

第十週